

令和4年度 みんなで支える森林づくり木曽地域会議（第2回）実施概要

- 1 日時 令和5年2月15日（水） 午後1時30分から3時まで
2 場所 木曽合同庁舎講堂

3 出席者

【構成員】（敬称略）

奥野宏、倉橋孝四郎、坂家重吉（座長）、田中淳司、二宮美香、古畑正美、安原千佳世

【木曽地域振興局】

神事局長、中宿林務課長、小林課長補佐兼林務係長、松尾課長補佐兼普及林産係長、
狩戸課長補佐兼治山林道係長、地域振興局林務課関係職員

4 実施内容

（1）会議事項

- 1）令和4年度森林づくり県民税活用事業 木曽地域の実施状況について【資料1】
- 2）令和5年度森林づくり県民税活用事業の概要について【資料2-1、2-2、3】
事務局から上記1）、2）について資料を基に説明し、ご質問、ご意見を伺いました。

※ 以下、「森林づくり県民税」は「森林税」と表記します。

【構成員の皆様からの主な意見等】

●自然環境を守る取組

資料の中に森林の役割として雨水を地中に浸透させるという説明があった。

最近「土中環境」とか「環境土木」といったキーワードが聞かれるようになったが、水源地を多く保有する木曽地域でもそういった取組が必要であると考えます。



●ライフラインの確保について

先日、大雪による倒木で停電が発生した。
ライフラインの確保は重要であるので、森林税だけでなく全体的な取組が必要。



●木工体験教室について（1）

自分は大工をしているが、職人の高齢化と高齢化と後継者問題について深刻に受け止めている。このような機会があれば、子どもたちに大工への関心を持ってもらえと思う。

また、少子化社会を迎えるにあたり、子どもたちには色々と教えていきたいこともあるので、このような機会を活用したいと思った。

●木工体験教室について（２）

今は木材を使ってももらえない。無垢の木は割れやひねりがあり欠陥住宅だと勘違いされるので壁工法が多かったりする。木を育てても売れなければダメなので、木工体験を通して、子どもたちには、木に接して木の良さを分かってもらい、そして、木を使うようになってもらいたいと思っている。

●森林の若返り促進に関連した意見等

集落の高齢化が進んでいる中で、山の手入れが十分にできていないということもありスギやヒノキが成長していった日影ができてしまっている。日影となっているところは雪も解けず、事故のもとにもなる。

木のことは詳しくないので、手入れがなされないと木はどこまで成長していくのか、教えてほしい。

林務課から木の成長について説明するとともに、支障となる木がある場合は県でも町村でもいいので知らせていただくようお願いした。

●やまほいくについて

子どもが保育園に通っているが、バスによる通園であるため、豊かな自然に触れ合いながら通園するということができないのはもったいないと感じている。山と人の生活環境との境界がなくなっていて、やまほいくをするにも動物からの危害のおそれもあることから、まずは、里山の整備を行って、子どもたちが安心して遊ぶことができる環境が必要ではないか。

●木曽地域の実績見込みについて

里山整備について、県下の計画量に対して約 16%の実績見込みであることに対しては評価する。

なお、予算の関係から今年度に間伐が実施できなかった箇所があるとも聞いていますので、そうした箇所は次年度、優先的に実施していただきたい。

●次期森林税について

主伐、再造林による森林の若返りなど、事業の目的は理解できるが、木材の生産と利用があつてこそ主伐が行われるものであり、伐採される樹種あるいは地域によって事業規模に差が生じると思われる。予算の配分が地域によって偏ることがないように配慮が必要。

造林から保育をセットで対象にするとのことだが、初年度に実施した事業と最終年度に実施した事業では、支援が受けられる年数に差が生じることになるので配慮が必要。

森林づくり支援金が再編されメニュー化して市町村に対して補助を行うことになることだが、メニューごとの予算に対して要望が多いものや少ないものが年度ごとで異なることも考えられることから、メニュー間の予算の配分について柔軟な配慮が必要。